

ナンバー盗 きかぬブレーキ

窃盗組織 捜査攪乱狙う?

カーナビやタイヤといった自動車部品の盗難は全体的に減ってきているのに、減り幅が少ない部品がある。ナンバープレートだ。盗まれて切り取られ、架空ナンバーの「材料」にされる。そのナンバーをつけた車は、組織窃盗グループにより別の犯罪に使われるという。

4割車部品で最多

警察庁によると、昨年のナンバー盗被害は全国で1万2629件。車の部品ごとの統計で最も被害が多く、全体の約43%を占めた。愛知県警によると、県内は昨年1285件で、2009年の約2500件から半減した。だが、かつて主流だったカーナビ盗は09年の約7千件から、昨年は約140件にまで減っており、ナンバー盗の割合は年々、大きくなっている。

自動車盗や侵入盗などの組織窃盗グループが偽造ナンバーを使っていた事例も確認されている。広島や愛知、岐阜県などで富裕層を狙った侵入盗を繰り返していたとして、愛知県警が8月に検挙した広域窃盗グループは、県をまたいで移動しながらナンバーを盗み、切り取った数

字部分を接着剤で貼り付けて土地ごとの偽造ナンバーに付け替えていたという。

こうした手口は、00年代半ばごろから増加。従来はナンバーを折り曲げたり、粘着テープで隠したりした車を使うのが彼らの手口の主流だった。ある捜査幹部は「防犯カメラの普及で、車の特徴を捉えやすくなった。ナンバーを隠すよりも、偽ナンバーで捜査の攪乱を狙うほうが得策と考えているのではないかと推察する。」

駐車人知れず被害

ドライバー一つでできるナンバー盗は、窓を割ったりキーを壊したりする車上狙いに比べて、周囲に気づかれにくく手軽にできてしまうことも、被害が減らない理由の一つだという。同県春日井市の会社員男性

(44)は8月21日朝、マンション駐車場から車で出勤し、会社で前方ナンバーが無くなっていることに気づいた。盗まれたのは、車に乗らなかつた週末の19日夜以降とみられ、駐車場内の一番奥でフェンスに向けて前方駐車していたために、周辺からは車の前方が見えにくい状況だった。

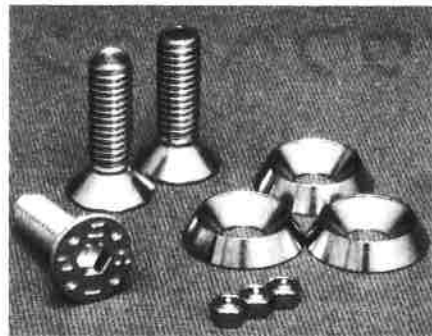
男性は21日午後に警察署に被害を届け、さらに仮ナンバーをもらいに市役所へ。時間がなくなり、小牧市の愛知運輸支局事務所には翌日に行った。手続きには2千円あまりの費用がかかった。男性は「盗まれたショックと、平日に2日ばかりで手続きをする手間が重かった」と話す。

対策ネジ付け替え

盗まれないための対策は、実はそんなに難しくはない。ナンバープレートに取り付けるネジを盗難防止用に替えるだけで、被害に遭う確率はずっと下がるといえる。男性が被害届を出した春日井署によると、管内の被害のほとんどは、通常の十字ドライバーのネジで取り付けられたものだった。

ユーロックテクノパーツ(神戸市)の盗難防止ネジ「JCCロック」は、ネジを六角レンチで締めた後、ネジ穴を六角形 of 金属片で埋める構造で、専用器具がなければ簡単には外せない。オープン価格だが、3000〜千円程度で販売されている。大手自動車メーカーも、特殊なドライバーで締める純正の対策ネジを扱っている。

(田中恭太、鈴木春香)



①愛知県警が過去に押収した偽造ナンバープレート。数字の「7」や「1」が貼り付けられている
②ユーロックテクノパーツの盗難防止ネジ「JCCロック」=同社提供